

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100343		
法人名	社会福祉法人 釧路啓生会		
事業所名	グループホームふみぞの 1階「さくら」		
所在地	釧路市文苑2丁目26番13号		
自己評価作成日	令和元年9月1日	評価結果市町村受理日	令和元年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100343-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「施設を利用する方々が心身ともに健やかにその有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう支援する。」という法人の理念に則すべく、家庭的でゆったりとした「生活の場」としての環境づくりとして室内は全体的に木目を基調とし、各個室や皆さんで過ごされるリビング、更にはトイレ等の共用スペースの全てにおいて余裕を持った広めの作りとしている。また、生活上の楽しみかつ健康管理に重要な食事に重点を置き、ユニットのキッチンその他に調理下処理室を設置し、専任職員が献立の調理・下処理を行うことにより質の高い食事を提供している。サービスの提供にあたっては各種委員会や多種多様なテーマに基づく職員研修、各利用者のケースについての会議を定期及び適宜開催することにより全職員が利用者本位のケアを実践できるよう取り組んでいる。また、併設施設の小規模多機能との合同行事・ボランティア活動等利用者同士の交流機会を持ちながら余暇活動を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年10月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅街の一画にあり、近くに公園や病院、大型スーパーや中学校があり、隣接の同法人が運営する「小規模多機能ふみぞの」と合同の防災対策委員会を設置し協力関係を築いている。木造2階建ての居間は広くゆったりと過ごせるようになっている。移動式の浴槽や移動式のすりが設置されており、身体状況に応じて支援できる安全な入浴を提供している。居間の一角には理髪店が利用できる部屋があり、普段は家族が訪問した時に利用者と一緒に寛いだり、利用者同士が寛いだりと色々で使用されている。職員は明るく穏やかで、利用者との馴染みの関係を作りお互いに信頼関係が作られている。隣接している小規模多機能と合同野外昼食会を開催し、フラダンスなどを行いながら地域住民やボランティア、家族が楽しんで交流している。利用者の余暇活動や希望を把握しながら、地域の人々の協力を得て戸外に出かけられるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念・基本方針を法人内の各種研修において認識及び再確認している。また、施設玄関にも掲示し、全職員が日頃から意識付けるよう努めている。	法人の理念や方針を玄関に掲示し、各種職員研修で意識確認を行っている。全職員が日頃から意識し共有しながら実践につなげている。	サービスの基本理念として掲げているが、地域密着型サービスの意義が盛り込まれていない為、それを盛り込み職員全員が理念を共有し理解していくことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントや避難訓練実施時にご協力をいただいていることと併せて、地域の行事に参加させていただいたり、また、地域の婦人部から雑巾等を寄付していただく等の交流をさせていただいている。	町内会の行事等に積極的に参加したり、事業所の行事では地域住民の協力を得ている。ボランティアによる「フラダンス」や「よさこいソーラン」の演舞があったりと交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや運営推進委員との連携により当施設や介護についての理解を地域に浸透。「子ども110番の店」に登録し、地域の子供達が安心して暮らせる地域づくりに協力している。非常災害時等の備蓄品の用意。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で運営状況、入居状況や行事等の取り組みについて報告、地域とのかかわりについての相談や意見交換を図り、サービス向上に繋げるべく努めている。	年6回開催し、地域包括支援センター職員や地域住民、家族等が参加し、運営状況や利用者状況等の報告と事故報告を行って、意見や要望を聞いてサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とはサービスの提供状況や運営についての相談等の連絡・報告を適宜行っている。また、地域包括支援センターとも情報交換を行い、サービスの向上に努めている。	市の担当者や地域包括支援センター職員に、運営状況の報告や相談等を行って、情報交換や意見・助言を得て協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修及び委員会にて身体拘束をしないケアについて徹底しており、日常から身体拘束に触れるケアは行っていない。玄関の施錠については原則行っていないが、入居者の状態により緊急性がある場合についてはユニット入口の扉を施錠する事もあるが日中の施錠は極力避けている。	拘束委員会を設置して、研修会や会議の中で身体拘束をしないケアについて話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。緊急時には日中施錠することがあるが、極力施錠をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修及び委員会にて虐待について周知徹底し、日常的にも身体観察をこまめに行ったり、対応・言動にも気を配っている。仮に万が一、接遇的にふさわしくない対応・言動があった場合は職員同士で注意し合うよう努めている。		

グループホームふみぞの 1階「さくら」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の中でも成年後見制度等権利擁護をテーマにし、職員全体が理解するよう取り組んでいる。また、日常から地域包括支援センターと連携を図り、相談を図れる体制を構築している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき説明することと併せて入居者・契約者からの疑問点・不安な点に対しては理解して頂けるよう噛み砕いた説明を行い、理解・同意を得ている。問合せされた不明な点は常時迅速に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは日常のコミュニケーションを通じて、また家族とは必要に応じて連絡をとりあい、お互いに話し合える関係づくりに努めている。また、その時の意見や心情についてを会議等でも取り上げ、運営やケアに反映させている。	利用者からは日常の会話や生活の中で、家族等からは来訪時などに意見や要望を聴くよう努めている。また、苦情・相談の受付窓口を掲示して、その機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にも職員に声掛け・対話を行うことにより職員が意見・発言・提案を行うことができるよう努めている。会議時も同様である。また、法人の取組として全職員との面談を実施している。	職員会議等で常に意見を言える環境にあり職員同士の意志疎通が出来ている。個人面談を行いその中でも意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の制度として人事考課による評価制度や昇格制度と併せて個人面談を実施し、相談やアドバイスをを行っている。また、日常より職員個々のコミュニケーションを重要視し、話しやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として職種別、階層別、採用年別研修を実施して、職員育成に努めている。また、施設としてもOJTや外部研修の参加についても取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会等に参加し、各種研修に参加。定期的に他事業所との意見交換等交流を図り、サービス向上に繋げている。他事業所との職員交換研修も受入れ先として決定した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの構築をしっかりと行い、入居者本人の意向や要望を傾聴し、思いを大切にしながら信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や入居者本人の思いが話しやすいような関係及び環境づくりに努めている。常に情報共有できるように必要ある事項は密に連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと聞き取りを行い、そのために必要なケアを適切に提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本サービスの提供だけではなく、生活的軽作業を職員と共同で行ったり、おやつ作りを共同作業で行ったりする等個々の状況にあわせた上で共に過ごし支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時・電話等必要に応じて家族と連絡を取り合い、家庭及び施設での様子を共有することにより利用者を支えていく関係を築くよう努めている。面会等も促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚等の訪問が容易に出きるよう、面会や手紙のやり取りを継続できるような促しを心掛けている。	定期的に来訪するボランティアや「よつばカフェ」に参加したりと、新しい馴染みの関係づくりを支援したり、馴染みの友人・知人との関係が継続できるように支援を行っている。訪問理美容師とは馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がコミュニケーションをとりやすく、また、利用者個々のそのときの心身状態等を考慮し、過ごしやすい座席配置を行うよう工夫。気の合う利用者との外出をサポートしている。		

グループホームふみぞの 1階「さくら」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要の際は家族はもとより移動先の施設あるいは医療機関等と互いに連絡・相談できよう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の意向や体調等を考慮し、就寝・起床時間や食事・おやつの提供時間帯にも配慮しているとともに日中の過ごし方についても本人の自己決定の上で適切なサービスを提供できるよう努めている。	日々の会話や散歩中、入浴時等でなげなく出る言葉を聞き逃さない様になら、利用者の希望や意向の情報を職員で共有し、希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人との日々のコミュニケーションや家族との連携の中でこれまでの生活歴や自宅での生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内での状況確認、家族との連携による自宅での状況把握と併せて介護日誌や引継ぎ、職員会議等を活用しながら、入居者個々の現状を把握し、職員全体が共有できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士の日々の報告・連絡、記録、職員会議での情報交換やカンファレンスを行い、家族の意見や同意を得た中で現状にあった介護計画を作成し、情報を共有している。	利用者・家族から介護に対する意向を聞き、カンファレンスを行い、課題とケアのあり方について話し合い介護計画を作成して家族に説明し同意を得ている。状態に変化があれば都度医師の助言を基に現状に即した介護計画を作成し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の生活の様子・食事摂取・水分摂取・排泄・バイタル測定・体調の変化を具体的に記録し、職員全体が情報を共有できる体制にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人で運営している他施設の行事、地域町内会での行事への参加や入居者本人の希望や体調に応じて外食やドライブ等必要に応じ実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設で主催した行事について地域への参加を促し、ご協力いただいているとともに地域のボランティアサークルにも声掛けし、利用者との交流を図っている。また、地域町内会の行事等にもお声掛け頂き参加機会をいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族及びかかりつけ医との連携の下、健康管理を行っている。かかりつけ医がいない方については協力医療機関または近隣の医療機関で受診できるよう支援している。	かかりつけ医への受診は基本的に家族が行っている。必要等に応じて本人の状況について文書で医師に伝えている。協力医療機関との連携や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるようにしている。	

グループホームふみぞの 1階「さくら」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないので家族及びかかりつけの医療機関との連携を行っている。また、隣接施設の看護師からもアドバイスを受け、インフルエンザ予防、感染症対策等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は情報提供を含めて問合せ等に速やかに対応できる体制にしている。また、入院中も医療機関及び家族とも連絡をとりあい、現状の把握に努めるとともに退院後のサービス提供等の相談ができるような体制としている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設が最大限できることを利用者本人や家族に対し十分に説明を行いながら、特養等他の入所施設や医療機関、地域包括支援センターとの連携を図る等、本人や家族が望むべき方向に進めることができるような支援に努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い同意を得ており、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	看取りに対して職員は現実問題として理解しており、会議の中で職員全員で話し合いながら情報を共有し、協力医や医療機関の支援や本人及び家族が望むべき方向を取り付けながら、連携方法やケア方法などの支援方法に取り組んでいくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には施設に常備しているAEDの使用。研修会における急変時の対応の学び。発生時、的確に対応できるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設と合同の防災対策委員会を設置。各種災害・防災対策についての理解を深めている。今年度は非常炊き出しも行った。夜間の火災想定訓練も年度計画に入っている。	避難訓練は定期的に昼夜を想定して年2回行っている。昨年の胆振東部地震時でのブラックアウトでは発電機を利用したり、野外での食事作りをしたりしながら乗り切り、この体験を基に備蓄品の見直しなどを行っている。複合災害時を想定しながら避難の対応や備蓄等を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶、声掛け、対応の際、入居者個々の人格を尊重することを心掛け実践している。研修を通し学ぶ機会を多くしているが、更に向上が必要である。	利用者それぞれに合わせて、誇りやプライバシーを損ねない声かけ、対応を心がけている。職員は常に声かけ方法について検討して改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の理解力に合わせた支援を行い、自己決定できるような働きかけを行っている。また、日々のコミュニケーションから個々の思いを汲み取り、安心して過ごせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースに合わせ、その方の思いや希望を優先して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望を聞き、衣類を選んでもらったり、化粧の手伝いをしたりする。また、大型スーパーへ行き、衣服・下着等を購入することもある。		

グループホームふみぞの 1階「さくら」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る範囲で職員と一緒に食前・食後の食事の準備や片付けを行っている。また、昼食やおやつメニューによっては共同で楽しみながら準備する等の工夫を行っている。	外食や事業所開催の野外昼食会等の食事を楽しむ支援を行っている。職員と一緒におやつを作ったり、利用者が食事の準備や後かだづけを行ったりして食事の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前・午後・食事後の水分摂取を個々に応じて対応している。また、家族とも調整を図り、食事等の摂取量や塩分・糖分等の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け・見守り・援助を行い、清潔を保持している。歯ブラシの工夫や義歯洗浄等個々に合った対応を行っている。また、個々の状態・希望に応じて歯科の往診を受け入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に応じて排泄の自立に向けた対応をしている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、身体状態を見ながらトイレへの声掛けや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分表を参考にし、個々人の水分摂取管理を行っている。また、かかりつけ医と相談しながら軽運動を行ったり、ヨーグルトを使用する等個々に応じた対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	移動式の浴槽並びに移動式の手すりを設置し、身体状況によって左右どちらからでも入浴できる設備となっている。また、個々の心身状態に合わせた入浴日程と職員と1対1の個浴によりプライバシーを尊重している。	移動式の浴槽と移動式の手すりが設置され身体状況に応じた支援が出来る様になっている。週2回を目途に入浴をしているが、一人ひとりの身体状態やタイミングを見ながら柔軟な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況にあわせてソファや居室で横になり休息をとってもらうこともある。夜間については入居者個々の生活パターンに合わせた就寝としており、在宅時の習慣やリズムに則した対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が常時服薬している薬の明細書を常備し、情報の共有を図っている。個々の薬管理を担当者を決め行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の季節的行事には嗜好品の提供をしたり、カラオケ・軽作業など個々の楽しみ・張り合いに合わせたサービスの提供を行っている。また、ボランティアによる音楽演奏の鑑賞や小学生・幼稚園児の来訪等でも楽しませている。		

グループホームふみぞの 1階「さくら」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや法人内特養施設または地域での行事の参加を適宜行っている。また、不穏状態の利用者をドライブや散歩に誘い気分転換を図ることもある。外食ツアーも企画し実施している。	散歩やドライブでは法人内特養施設や地域の行事に参加し、近隣の散歩やドライブに出掛け、外食する等外気に触れる機会を工夫し、利用者の気分転換になるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通帳等の大きな金額はお預かりしていないが、少額であってもその重要さは理解しており、特定の職員のみが責任を持って取り扱うこととしている。買物や通院等で外出の際はご本人と一緒に金額を確認しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話の取次ぎや手紙のやり取りは希望に応じて行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目を基調とした内装であり、清潔保持や整理整頓等を常に行っている。また、春から秋にかけてのプランターや季節的行事の飾り付け、BGM等入居者が雰囲気を楽しめるような工夫に努めている。また、季節に応じた室温・湿度の管理を徹底している。ベランダの整備もしている。	共有の空間である居間は広く清潔感にあふれている。壁には写真や季節感のある飾り付けを行って、利用者はお気に入りの場所でぬい絵など好きなことをしながら居心地よくゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の状況によってテーブルの配置を工夫したり、ソファで過ごしてもらったり、居室でお休みしたり個々の入居者の心情を尊重するような居場所づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の好むものや使い慣れた物(例えば、テレビ・冷蔵庫・ソファ・お仏壇等)の持込を了承し、各々が自宅で生活していたときと同じように過ごすことができるようにしている。	広く清潔感ある居室に、使い慣れた家具等を持ち込んだり、お気に入りの物を身近に置きながら、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の構造、家具の配置等入居者の目線で確認できるよう配慮している。また、入居者個々の残存能力を把握し、その有する力を出来る限り本人の意向に添いながら発揮できるように支援している。		